
例えばこういう告白の仕方

フジマ・カエ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

例えばこういう告白の仕方

【Nコード】

N7347D

【作者名】

フジマ・カエ

【あらすじ】

美術の課題は「好きなもの」「彼女のすきなものは何？

真っ白いキャンパスを見つめるがまったく筆が進まない。

選択授業には音楽も習字もあったたというのになぜに美術をとった。まあ俺の類まれない才能で人を驚かしては駄目だろうと言う事で音楽は却下。習字はもともと習っていたから取らなかつた。で残ったのが美術。

でも美術って必ず提出が義務付けられているから絶対不利だと思う。習字もだけどまた違うと思うんだよな。

「誠のキャンパス。真っ白だねえ」

幼馴染の髪の毛が顔にかかり、シャンプーの香りで頭が麻痺しそうになる。

彼女は俺の肩にあごを乗せていた。

「麻美は書けてるのかよ」

心の中で平常心という看板を掲げ少し肩をずらした。

「当たり前でしょ」

彼女は背筋を伸ばし自分の席にあるキャンパスを指差す。

真

っ白だ。

「油を売らずにさっさと書けよ」

麻美は「まかせなさい」と言って友人の元に戻っていった。隣を見ると内村が熱心に英語をキャンパスに書いている。

「お前、なにやってるの？」

「芸術は爆発だ！」

「どこぞの天才か！」

「素早い、突っ込みありがとう」

「空でも書きますかあ」と独り言。

「いいねー」

独り言のつもりが返事が返ってきたので視線をずらす。

「これはこれは、麻美さん」

先ほどの男の話の話を思い出し少し不愉快になる。

「何かあった？」

と笑いながら隣に座ってきた。

「いいや。麻美は何書いているの？」

「すごく好きなのを書いていたんだけど、題材が行方不明になっ

ね マコトは空を書くの？」

空を指さして言う。

「今、手抜きだと思っただろ」

「そうかな？ 内村君の英単語よりましじゃない？」

内村と同類に並べられるのか？ それって空に失礼だと思うぞ。

「あいつが言うには、それも芸術だって」

「いい加減よね。でもそれって覚えやすそうではあるけどね」

「確かにな」

「よいしょ」その掛け声でキャンパスを膝の上においた。

「何？ ここで書くの？ 題材行方不明なら一緒に探そうか？」

俺の質問に麻美はにっこりと笑う。

「あのさ、私の芸術に付き合わない？」

いつもと違う雰囲気なので、思わず頷きそうになった。

「どうした？」

「行方不明の題材」そう彼女に指を指されて、目を白黒させている

のが自分でもわかる。麻美は余裕の笑みを浮かべて俺の前にいる。

そして「深い意味はない。とは言えないかな」と続けた。

いったい何を言っているんだろう。

いや、本当は分かっている。それは随分前から俺がよく知っている

事だ。

「固まらないですよ。まあ、考えてみてよ」

麻美は軽快に笑う。いつもと変わらない麻美の笑顔を見て少し落ち着いたように感じるが、相変わらず心臓の音は俺の耳元でバクバクと音を立てていた。

「……なにを考えるんだ？」

麻美の目を見て聞き返す。

「深い意味？」

彼女の顔が近づいてくる。いや、俺が近づいてるのか……。

「その意味、一緒に考える？」

e n d

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7347d/>

例えばこういう告白の仕方

2011年1月27日14時27分発行